



六中だより

～学校教育目標～

“ 学力と情操 ”

“ 健康と忍耐力 ”

“ 勤労と責任 ”

離任式が行われました

4月28日(木)、令和4年度離任式が行われました。この日、久しぶりに六中に訪れた先生方は、校舎や生徒の姿を見て、懐かしがっていました。離任式は1時間以上にわたって行われました。笑いあり涙ありの感動的で有意義な時間となりました。以下、離任された先生方のお言葉を抜粋して紹介します。

横田 佐知子 先生(保健体育)から

こんにちは。(生徒が「こんにちは」とあいさつを返したことを受けて、)今日はみなさんの「こんにちは」という声を聞きに来ました。六中生のあいさつは最高です。今まで勤めてきた学校の中で一番だと思えます。1年生は2、3年生を見習い、六中の良いところを引き継いでください。私は、みなさんと一緒に行く授業が楽しみでした。授業に行くときはいつもワクワクしていました。みなさんががんばる姿はとても素晴らしかったです。これからもがんばってください。私は3月に退職しました。もう先生ではありません。でも、またいつか「先生」に戻るかもしれません。六中は最高でした。ありがとうございました。

伊藤 真 先生(理科)から

みなさんが知っているように、私は昨年10月から学校を休みました。休んだ理由は仕事をがんばりすぎてしまい、自分の容量を超えてしまったからです。それで体調を崩してしまいました。体調が回復していくにつれて改めて私は六中が好きだったんだと思うようになりました。六中のことを思い出さない日はありませんでした。先生(という職業)も好きでした。でも、退職する道を選びました。私の両親は教員でした。姉や祖父も教員でした。だから、家でも学校のことがよく話題になりました。私はときどき、自分は学校のことしか知らず、世の中のことを知らないのではないかと、このまま先生を続けていくことが本当にいいのかと考えることがありました。一方、私は以前からシステムエンジニアに関心がありました。そして、学校を休んでいるときに自分の本当にやりたかった道に進みたいと考えるようになりました。みなさんも人生の中でいろいろな経験をしてほしいと思います。人生の最後まで自分のやりたいことをやってください。応援しています。

黒木 陵平 先生(英語)から

六中での思い出はたくさんありました。私は2年前、3年生が入学した年に六中にやってきました。3年生と一緒に鎌倉校外学習や修学旅行にも行きたかったです。このたび、退職することになりましたが、先生の仕事が嫌になったわけではありません。私は人生について考えることがよくありました。テレビドラマで刑事ものを見ていて警察官になりたいと思うこともありました。そして、役者を目指すようになりました。友だちにも役者を目指している人がいます。また、すでに役者をやっている先輩もいます。私は、やりたいことがあるのにやる前からあきらめてしまうといつか後悔するのではないかと考えています。若いときに新しいことにチャレンジすることはリスクもあると思います。でも、やりたい気持ちを無理に抑えることはないと思います。みなさんも自分の人生をしっかり考えてみてください。

齊藤 香理 先生 (英語) から

六中に来ると安心します。六中は私の居場所です。今日は3年生のみなさんに最後のお別れをするためにやってきました。残り1年をみなさんと一緒に過ごすことができず、とても残念でした。六中を離れて思うのは、みなさんは本当にいい子たちだったということです。だから、自信をもって残り1年間を乗り切ってください。ただし、みなさんは本当にいい子たちですが、それだけでは足りません。進路に向けて考えるときは妥協してはいけません。みなさんには可能性があります。そして、みなさんを応援してくれる人はたくさんいます。3年生の先生や保護者・地域の方、友だちもいます。そして、私たちも遠いところから応援しています。

中富 咲里 先生 (英語) から

私の今勤めている学校の生徒も六中生と同じように素直で元気です。私は今の学校ではまだ緊張しています。今の学校で初めての生徒と接していても、ときどき六中生のことを思い出します。やはり、六中の生徒はあいさつや聞く態度がしっかりできていると思います。さて、みなさんにメッセージを送ります。

「YOU PLAY WITH THE CARDS YOU ARE DEALT. WHATEVER THAT MEANS.」

これは、「与えられたカードで勝負するしかない。それがどういう意味であれ。」ということを表しています。みなさんは、部活や受験で、自分のもっている力を存分に発揮してください。そして、その力を磨いてください。そのために一所懸命生きてください。

三富 康治 先生 (保健体育) から

1年生のみなさんは学校に慣れましたか。もしも困っている人を見かけたら勇気を出して、大丈夫？ と声をかけてください。それで救われる人がいるかもしれません。2年生は4月から先輩になりました。背中で語れる先輩になってほしいと思います。そして3年生…、思い出がありすぎてすべてを語ることはできません。そこで、ここではメッセージとして、私が以前、印象に残った生徒のことを紹介します。その生徒は小学校の頃はスポーツが得意で、人から追われる(目標とされる)立場でした。ところが、中学校に入ると追いかける立場に変わり、追いかける人たちからだんだんと引き離されていきました。そして、3年生の最後の大会では何とか納得できる結果を出すことができました。この生徒の話は、努力しても報われないこともあるのだということを表しています。でも、この生徒のように、みなさんもあきらめずにがんばりぬいてほしいと思います。努力し、あきらめなければ自分の中で納得できます。がんばってね。

山田 慶子 先生 (数学) から

人生の先輩として、みなさんにお話しします。みなさんにとってめんどくさいと思うことは何ですか。部活のときの基礎練習だとか、ケンカしたあと相手に謝ることだとか、授業でノートをとることだとか、いろいろあると思います。私にとってめんどくさいことはしゃべることです。でも、めんどくさいことから逃げているともっとめんどくさいことになります。逃げずに向かっていくと自信につながります。がんばってください。

吉田 実 副校長先生から ※当日は欠席でしたが、文書でコメントをいただきました。

今、「祭りのあと」の心境にあります。充実感と寂しさと、はしゃぎすぎた照れのようなものと、忸怩(じくじ)たる思いも多少混じります。私が府中第六中にお世話になったのは令和元年4月より3年間でした。この3年間は誰もが経験したことのない「コロナ禍」で終始した感があります。生徒のみなさんとは、直接授業等で接することはありませんでした。生徒のみなさんにとって、私の存在の実感としては「ばあや」状態だったように思います。時折ですが生徒のみなさんと「こんにちは」とあいさつを交わすときや、授業、行事、部活動でみなさんの活躍している姿を目にするのが何よりの楽しみでした。仕事上の実感として、「起承転結」があるとなれば、まだ「承」のあたりに思います。ようやく府中第六中の様子に慣れ、さあ、これから… というところで、選手交代となりました。名残惜しいです。しかし、「リセット」する機会を与えられたと受け取っています。

生徒のみなさん、保護者・地域のみなさまにはただただ感謝を申し上げます。非力な私が身の丈を超える役割をこの3年間続けられたのは、皆様のおかげだと思います。私はこれからは「府中第六中応援団」の一人として声援を続けます。みなさま、お元気で過ごしてください。